

地域医療連携新聞

No.62

平成26年12月号
(隔月発行)

発行/朝日大学村上記念病院(地域医療連携室)
岐阜市橋本町3丁目23番地 TEL.058-253-8001(代)
TEL.058-253-8920(直) FAX.058-253-8910(直)

最近の話題・トピックス

「生物学的製剤と呼吸器感染症」

呼吸器内科 舟口 祝彦

現在、生物学的製剤(Bio)は、関節リウマチ(RA)、クローン病、乾癬などの難治性免疫性炎症性疾患の治療薬として広く用いられています。特にRAではTNF阻害薬(レミケード[®]、エンブレル[®]、ヒュミラ[®]、シンボニー[®]、シムジア[®])、抗IL-6受容体抗体(アクテムラ[®])、T細胞共刺激分子阻害薬(アバタセプト[®])の7剤が国内で使用されています。病院だけではなくクリニックの先生方もBioを使用されたり、使用中の患者さんを診療することも多くなってきているのではないかと思います。BioはRAの予後を目覚ましく改善してきましたが、一方で感染症、特に肺感染症の発生が問題となっており、2014年2月に日本呼吸器学会や日本リウマチ学会などから「生物学的製剤と呼吸器疾患診療の手引き」が作成されました。Bio投与前は勿論のこと、投与中も感染症の有無に十分に気をつけることが重要です。感染症が見つければBioの投与は見合わせ感染症の治療を最優先する必要があります。Bio投与に伴う重症感染症発生のリスク因子として、ステロイド内服中、65歳以上の高齢者、生活機能障害が強い、間質性肺炎合併、呼吸器疾患既往歴、糖尿病などが報告されており、また、腎機能低下や喫煙は一般的に感染症リスクを上げると考えられています。Bio投与にて関節リウマチの疾患活動性が低下した場合にはステロイドは減量し可能なら漸減後中止することが検討されます。

RAにおける呼吸器診療においては、合併する間質性肺炎や気道病変(気管支拡張症や様々な細気管支炎)は治療中に起こる各種感染症、各種肺合併症(薬剤性肺障害、既存の間質性肺炎の急性増悪)のリスク因子になります。Bio投与前に、肺・気道病変の評価を十分に行うことは非常に重要であると思われます。

Bioを投与する場合の結核スクリーニングとして、問診と胸部X線・CT、ツベルクリン反応、最近クオンティフェロン・T-SPOT検査といったIGRA(Interferon-gamma release assay)による評価が行われています。これらの検査で結核既感染が疑われた場合には、イソニアジドによる潜在性結核治療を開始し、イソニアジドの開

始から3週後にはBioを開始して良いとされています。もちろん活動性の結核であれば、Bioは禁忌であり、通常の抗結核薬による化学療法を行うことが必要です。

また、非結核性抗酸菌症(NTM)に関しては、国内外のガイドラインで、現時点では確実に有効な治療法がないために、Bioの投与は原則禁忌とされています。しかしながら、NTMの軽度なものは、RAが好発する中年女性にしばしば認められ、そうした軽症例の大半の臨床経過は生物学的製剤の投与により大きく影響されるものではないようです。NTMの治療適応あるいはBioの使用の可否については十分な検討が必要です。

その他、問題となる呼吸器感染症として、ニューモシスチス肺炎(PCP)があります。結核とほぼ同程度の0.2-0.4%の頻度で見られ、重篤な真菌感染症の中では群を抜いています。Bioを投与する際の真菌感染症のスクリーニング・PCPのモニタリングとして、血中β-Dグルカンの測定は有用です。喀痰検査または気管支洗浄液によるPCP-PCR検査は早期診断に有用です。Bio投与下のRA患者さんにおいて、PCPは、他の感染性肺炎、既存の間質性肺炎の急性増悪やメソトレキセートなどによる薬剤性肺障害などとの鑑別が必要です。治療はST合剤と副腎皮質ステロイドの短期大量投与が基本ですが、予防としては通常ST合剤の1日1錠投与などが行われています。

Bio投与例はもちろんのこと、高齢化社会において、急性・重症の呼吸器感染症の治療あるいは慢性の呼吸器感染症の管理は、多くの領域の先生方にとって非常に大きな問題であると思われます。お困りの症例などございましたら、お気軽にご相談ください。最後に、当科では各種感染症の診断・治療をはじめ、画像診断、COPD・喘息でお困りの症例、肺癌の診断・治療など幅広い呼吸器疾患に対応可能です。先生方のお役にたてるような診療と連携を心掛けておりますので、よろしくご厚意申し上げます。

新任医師のご紹介

11月より

とみえ ゆか
麻酔科 助教 富江 有香



年末年始休診日のお知らせ

年末年始は、下記のとおり休診いたしますので予めご了承下さい。

平成26年12月				平成27年1月			
28日(日)	29日(月)	30日(火)	31日(水)	1日(木)	2日(金)	3日(土)	4日(日)
休診	休診	特別外来 午前中のみ	休診	休診	休診	休診	休診

救急・急患の場合は、この限りではありません。

特別外来の日時……平成26年12月30日(火) 8時30分～11時30分(初診受付時間は11時まで)

特別外来診療につきましては、一部実施しない診療科もございますのでお電話にてご確認の上、ご来院願います。

村上記念病院

脳卒中

ホットライン

直通電話番号

070-6583-6677

脳卒中治療は一刻を争います。
当院では専門医が速やかな
診断・治療を行います。



診療医のご案内



(平成26年 12月 1日現在)

診療科		月	火	水	木	金	土
消化器内科	初診	富江	八木	大洞	久保田 (非常勤)	加藤(隆)	八木 大島(靖)
	予約診	小島	大洞	小島	加藤(隆)	北江(博)	加藤(隆)
	予約診	八木	大島(靖)	富江	—	福田	—
循環器内科		瀬川	加藤(周)	瀬川	加藤(周)	大野 (腎臓内科)	担当医
		八巻	大野 (腎臓内科)	八巻	渡辺 (非常勤)	早川 (非常勤)	—
腎臓内科		大橋	—	大橋	泉	—	大橋
糖尿病・内分泌内科		猿井 柳瀬	武田 柳瀬	武田 佐々木・北江	猿井 佐々木・北江	猿井 武田・柳瀬	武田 佐々木
呼吸器内科		中島	舟口	舟口	中島	舟口	中島
外科		久米	川部	久米	中嶋	川部	担当医
		高橋	池田	池田	—	中嶋	—
乳腺外科	1診	川口	名和	名和	名和	川口 (2・4週目)	名和 (1・3・5週)
	2診	—	川口	川口	川口	名和	川口 (2・4週)
脳神経外科		石澤	郭	山下	石澤	担当医	郭
		山下	宮居	武井	宮居	—	武井
整形外科	初診	日下・河合	青芝/山賀	塚田	後藤(毅)	前田	担当医
	予約診	—	—	前田	河合	大友	—
	予約診	—	今泉	日下	山賀	日下	今泉 (第1・3週)
	予約診	後藤(毅)	塚田	青芝	塚原	今泉	塚原 (第2週)
眼科	1診	杉本 (非常勤)	杉本 (非常勤)	奥村 (非常勤)	—	奥村 (非常勤)	—
	2診	—	矢田	矢田	矢田	矢田	—
泌尿器科		江原	土屋 (非常勤)	江原	江原	江原	—
婦人科		藤本	(予約制)	(予約制)	藤本	藤本	—
放射線治療科		大宝 (初診・再診)	—	大宝 (初診・照射中)	大宝 (再診)	大宝 (初診・再診)	—
歯科・口腔外科	初診	村松・本橋 大橋	足立・樽沼 大橋	中島・村松 関根	齋藤・樽沼 大橋	本橋・村松 大橋	足立・樽沼 村松

[ご案内] ●診療受付時間は、全科8:00～11:30、ただし、初診の方は、11:00で受付終了。(救急・急患の場合は、この限りではありません。)
●年度変わりの時期や学会出張により、診療医が変更することがありますので、予め確認が必要である方は、お電話でお尋ねください。